

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会  
第 17 回 外的事象 PRA 分科会 議事録

日 時： 2019 年 10 月 30 日(金) 13:30～16:30

場 所： 電中研 大手町 734 会議室(旧第二会議室)

配布資料

- RK6SC 17-1 第 16 回外的事象 PRA 分科会議事録 (案)
- RK6SC 17-2 人事について
- RK6SC 17-3-1 (最終報告)原子力発電所に対する断層変位を起因とした確率論的リスク評価手法に関する実施基準:202X
- RK6SC 17-3-2 断層変位 PRA 実施基準 (中間報告) 標準委員会意見募集結果とその対応
- RK6SC 17-3-3 断層変位 PRA 実施基準 新旧対比 (標準委員会意見募集結果の反映)
- RK6SC 17-3-4 原子力発電所に対する断層変位を起因とした確率論的リスク評価手法に関する実施基準:202X (電子版配布のみ)
- RK6SC 17-4-1 地震 PRA 標準 2015 英訳版の進捗状況と今後の予定について
- RK6SC 17-4-2 地震 PRA 標準 誤記載の修正箇所表
- RK6SC 17-4-3 JCNRM への英訳意見依頼と意見提出
- RK6SC 17-4-4 地震 PRA 標準 2015 英訳完本版 (電子版配布のみ)
- RK6SC 17-5 津波 PRA 学協会規格ピアレビュー試行について

議題：

1. 定足数確認, 資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 断層変位 PRA 標準 最終報告
5. 地震 PRA 標準 2015 英訳版の状況
6. 津波 PRA を対象とした学協会規格ピアレビューの試行について
7. 次回日程、その他

(出席予定)

出席委員(15名)： 糸井主査 (東大), 桐本幹事 (電中研), 内山 (大成建設)、黒岩委員 (MHI-NS エンジ), 佐々木委員 (関電), 安達委員 (テブシス), 栗田委員 (東電設計)、井上委員 (東芝 ES), 泥谷委員 (NEL), 橋本委員 (電中研), 山野委員 (JAEA), 足立 (吉田委員代理) (大林組)、綿引委員 (東電 HD), 中島委員 (電中研)、高橋 (美原委員代理) (鹿島)

欠席委員 (2名)： 木村 (織田委員代理) (日立 GE), 倉沢委員 (中部電),

出席常時参加者(1名)： 成宮 (JANSI)

欠席常時参加者(3名)： 、小原 (関電)、根岸 (原電エンジニアリング)、出井 (規制庁)

説明者： 酒井 (断層変位 PRA 作業会)

## 5. 議事内容

### (1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 17 命中 15 名が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。また、資料確認が行われた。

### (2) 前回議事録の確認

桐本幹事から、前回議事録の内容について説明がなされた。

### (3) 人事について

桐本幹事から、人事について説明があった。地震 PRA については、前回、後日メール審議での承認となっていたが、改めて 2 回分の人事の承認について審議し承認が行われた。また、主査、副主査の交代についても報告が行われた。

### (4) 断層変位 PRA 標準 最終報告の準備状況について

酒井氏より、断層変位 PRA 標準の最終報告について説明があった。

これに伴って、性能規定化の標準の検討に関わる考え方や現状認識、トライアルユースの位置づけ方などについての議論が行われた。リスク専門部会から標準作成の方針やルール意思表示を固め、標準委員会に示していくことが今後必要であることが議論された。

上記の議論は目的やルールなどが議論中であるため、今回の断層変位 PRA 標準については、現行の形を元にリスク専門部会への報告資料を作成することが確認され、分科会からの意見募集も並行して行うこととした。

また、本文資料中の細かい誤記修正の指摘も行われた。

### (5) 地震 PRA 標準 英訳状況について

成宮常時参加者より、地震 PRA 標準 2015 の英訳版について説明があった。

以下の議論があった。

- ・ 共通用語を JCNRM で議論に用いるにあたりレビュー以外に使わないという覚書を出したか？ → 共通用語は標準委員会でも指示があり交わしているが、地震 PRA についても同様の確認が必要。
- ・ 本内容で上位委員会に報告することが確認された。

## (6) 津波 PRA を対象とした学協会規格ピアレビューの試行について

桐本幹事より、津波 PRA を対象にした三学協会の規格ピアレビューの実施内容の報告について説明があった。

- ・ 全標準がこれを行うのか？
  - いずれはそう思うと思うが、今回は試行内容を元にピアレビューの実施ガイドをブラッシュアップするのが目的。また、ピアレビューの主対象は策定や審議プロセス。
- ・ 新知見をどこまで反映すべきかの基準などについては議論があるが、今回は土木学会などでの議論を元に反映したという説明を行った。他の学会からもここについては良い事例があれば教えてほしいとのコメントがあった部分である。
- ・ 地震 PRA で作っている新知見についての分類整理等があるとレビューを受ける際の説明の時に有用である。
- ・ 資料は基本的に標準委員会やリスク専門部会で報告資料を中心に用いて、対応は事務局と作業会からは幹事と委員 1 名で対応した。

## (7) 次会日程 その他

- ・ 次回分科会は 1 月末~2 月初旬の 13:30~17:00 電中研大手町付近の開催で調整することとなり、後日会場の調整により 2/4PM に関電東京支社会議室での開催となった。

以上